

「では、発表を聞いて、読みたくなったら本に手をあげましょう。ひとり一回だけ。保護者の方も、どうぞご参加ください。高く手をあげてくださいね」

まず、珊瑚からだ。

鈴木先生とクルミンが人数をかぞえて、歩きまわる気配がする。

十文字くん。

わたし。

大石くん。

次々と名前が呼ばれて、投票は続いていった。

数えおわった合図で、わたしたちはみんなの方に向きなおった。みんな、にやにやしてこっちを見ている。もう、結果がわかっているみたい。

そんなみんなをまっすぐに見られなくて、わたしは、ぎゅつと目をつぶった。

